

## 図書館パスファインダーとは？

### 情報探索の道しるべ

あるテーマについて、調べようと思ったときに、どこから手をつけてよいか迷ったことはありませんか？

現在、多くの図書館で「〇〇の調べ方」や、「〇〇について調べるには」等の名称でパスファインダーを作成し、ホームページで提供しています。

### 1. パスファインダーってなに？

パスファインダー (pathfinder) とは、path(小道)と finder (発見者) の複合語で、「探検者」「開拓者」という意味です。

図書館では、あるテーマに関する情報の探し方や調べ方を案内する「情報探索の道しるべ」を指します。

調べようとしていることに詳しくない方でも、情報の海の中から迷うことなく、効率的に情報が集められることを目的として作成されています。

#### 〈パスファインダーの例〉

国立国会図書館では、「調べ方案内」として、「政治・法律・行政」「経済・社会・教育分野」「科学技術・医学」など、さまざまな分野にわたり、ホームページにパスファインダーを掲載しています。詳細に作成されており、たいへん参考になります。

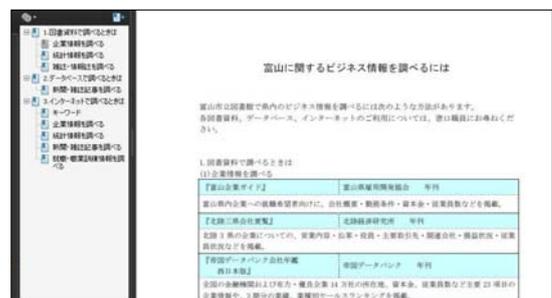
また、福島県立図書館の「警戒区域・計画的避難区域内のことを知る」や、愛知医科大学医学情報セ

ンター図書館の「メディカルパス」(医療・健康情報) など、各図書館では、地域のニーズに合わせたパスファインダーを作成しています。

### 2. 富山市立図書館での取り組み

#### (1) ビジネス情報の調べ方

当館では、「富山に関するビジネス情報を調べるには」というパスファインダーをホームページで公開しています。



富山市立図書館ホームページより「調べ物相談」→「調べ方案内」

図書資料のほか、有用なウェブサイトやデータベースを選別し、企業情報や統計情報の調べ方や、雑誌・新聞記事の探し方などを、コンパクトにまとめています。

当館では現在、約 93 万 7 千冊の蔵書があり、そのうち、富山に関する地域資料は、約 6 万冊となっています。

今後は、これらの資料を活かし、地域に密着したパスファインダーを追加作成していく予定です。

## (2) 富山について調べる(小学生用)

当館ではこのほかに、小学生(中学年～高学年を対象)のパスファインダーの作成にも力を入れています。

現在、富山市立図書館こどもページの「調べ学習」のコーナーに、「富山について調べる」(富山市立図書館調べ案内)の名称で掲載しています。(画面①)また、各窓口でも、閲覧できます。



画面①

### 〈作成のきっかけ〉

学校で“地域のことを調べよう”といった宿題がでるたびに、大勢の子どもたちが図書館に来ます。ところが、自分で調べようと思って、思いついた言葉を蔵書検索機に入力しても、なかなか情報が見つかりません。せつかくそれらしき書名を見つけることができても、大抵は難しい大人の本で、途中で調べることをあきらめてしまいます。そんな子どもたちを見るにつけ、司書として何かできないものかと頭を悩ませてきました。

そこで、窓口でよく受ける質問のうち、次の11項目をまず作成しました。

「富山城」「富山大空襲」「おわら風の盆」「大山の恐竜」「イタイタイ病」「売薬」「郷土料理」「常願寺川」「神通川」「北前船」「方言」です。



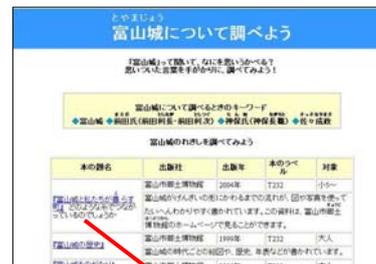
画面②

パスファインダーに沿っていけば、ある程度は、一人でも調べられるようになっていきます。(画面②)

### 〈作成にあたって〉

子ども向けの地域資料が少ないため、一般用の資料のうち、写真やイラストが多く、わかりやすい図書や、パンフレットなども取り入れて紹介しました。

また、ウェブ上のパスファインダーには、資料名をクリックすると所蔵状況や予約がかけられる画面にジャンプするように、資料の1つ1つにリンクを貼りました。(画面③)



クリック



画面③

実際に作成してみて、自身の知識が深められたとともに、足りない資料の補充や、古い資料の更新ができたことが大きな収穫でした。

今後も常に資料の見直しや追加を行い、新鮮な情報をパスファインダーに反映させていきたいと考えています。

## 3. おわりに

司書は、情報の専門家です。司書には、図書館にある本や雑誌・新聞をはじめ、データベースやウェブ上の情報まで、必要な情報を探し出す知識と技術があります。このノウハウを活かし、富山市立図書館ならではのパスファインダーを作成していく予定です。

調べたいことがある場合は、お気軽に窓口でご相談ください。電話やメールでのご相談も受け付けています。(本館 牧田)

# 岩倉政治文庫の資料 其の十九

『波音』

新日本出版社

1986年



左は岩倉政治文庫所蔵の『波音』。  
「著者用」の書きこみがある。

岩倉は、晩年を迎えてもなお、旺盛に執筆に取り組みました。今回はその中でも80歳ごろに書かれた作品を集めた短編集『波音』を紹介します。

代表作である『無告の記』の発表後に執筆された本作は、「あとがき」に記されているように、『無告の記』の続編的な性格を持つ作品が収録されています。

特に表題作である「波音」は、続編としての意味合いが強い作品です。

ある日、作家の野木のもとに旧知の画家、石子雪峰の訃報が届きます。彼の妻から「家に来てほしい」と頼まれた野木は、驚きながらも石子の自宅へ向かいます。石子にある政党への入党を断られて以来、野木は彼と長い間疎遠になっていました。

石子の自宅で野木は、彼が死の直前に書いた入党申込書を手渡されます。それは、一度は権力に屈した石子が、葛藤を乗り越えて自分の思想をつらぬく決意を固めていたことをうかがわせるものでした。

野木と石子の生きざまは、自分の内面にある苦しみと向き合いながら、生きかたを模索する「求道」という『無告の記』のテーマを色濃く引き継ぐものです。

さて、岩倉の著作には、本人や周囲の人たちがモデルとなった作品が多くあります。しかし、父親については、「その影の薄いのにわれながらおどろいたものである」と『波音』の「あとがき」で述べているように、作中に登場することはほとんどありませんでした。

その中で、『波音』所収の「杳かな父」は、初めて岩倉が父親と正面から向き合い、今までの作品に欠けている部分を補うことを目的として書かれた作品です。

排泄物の溜桶を取り替える「カンショ替え」で率先して汚泥の中に入り、桶板をはがす勇ましい姿や、春祭りに二人で出かけた時の上機嫌な様子など、生前の思い出を通して父親の姿が描かれています。

亡き父親の年齢を越え、親の偉大さや愛情がしみじみとわかるようになった晩年期ならではの作品といえます。  
(本館 山木)



「甲子春 岩倉政治」と記された墨跡。

昭和59年(1984)に岩倉本人が記したもの。

この年、81歳で富山新聞文化賞、北日本新聞文化賞を受賞している。

## とやま駅南図書館「ぶらり」が長期間休館します。

期間 平成24年9月4日(火) ～ 平成25年2月28日(木)〈予定〉

とやま駅南図書館「ぶらり」(C i Cビル4階)は、フロア工事のため、上記の期間休館します。

お問い合わせは、本館(076-432-7272)までお願いします。

# レファレンスあれこれ

**Q.** 神社で行われる「うそかえ」という行事について知りたい。富山県では、どのように行われているのか。また、その行事の中で「かえもの」というものが神社より配布されるらしいが、どのようなものなのか。

**A.** 神社で執り行われる神事のひとつ「うそかえ」。  
『日本国語大辞典』（小学館 2001）の「うそかえ」の項目を見ると「うそ」には、鳥の「鶯<sup>うす</sup>」の字が当てられ「鶯替」と書く。鶯替の神事、鶯替祭とも呼ばれ、「福岡県大宰府、および東京都江東区亀戸天満宮などで参詣人が木製の鶯を替え合う神事。昨年の凶をうそにして今年の吉に取り替える意という。」とある。鶯は、天神の御使鳥とされ、「鶯」が「嘘」に通じていることや日本各地でこの神事が定着していることがわかった。

同辞典で「かえもの」を引くと、「換物神事」の項目があり、この神事で取り替える品々を指す。

次に日本全国の年中行事を網羅した『年中行事大辞典』（吉川弘文館 2009）を見ると「大宰府天満宮鶯替神事」の項目があった。これによると、鶯替は正月七日の夜に行われ、参詣人が暗闇の中で「替えましょ、替えましょ」と言いながら、木鶯を交換してゆく。この群集の中に神職が密かに黄金の鶯を紛れ込ませ、最後にこれを持っていた者は、一年の幸運を手にすることができたという。しかし、その取り替え事は、時とともに変化し、現在では、参詣者があらかじめ番号の付いた木鶯を買い求め、後に当選番号が発表されることがわかった。また、この資料では、鶯をかたどった木製の「かえもの」の写真を見ることができた。

それでは富山県内では、どのように換物神事が行われているのか、郷土資料より民俗・風習関連の資料を調べていく。

富山の伝承行事や習俗の論考をまとめた『とやま民俗文化誌』（シー・エーピー 1998）には、「富山の天神さま」として親しまれている富山市於保多町にある於保多神社の「ウソカエ神事」の記述があった。県内で行われる鶯替で最も有名なのは於保多神社であり、5月25日に行われる。「かえもの」の鶯は、木製ではなく土人形で、かつては、大宰府天満宮と同じく参詣者同士が鶯を交換していたが、現在は、参詣者が番号付きの鶯を手にし、後に発表される当たり番号の鶯を持つ者は、神社より賞品がもらえるとする。

『ふるさとの風と心 富山の習俗』（桂書房 1986）には、於保多神社で当たり番号の鶯を手にし、喜んでいる家族のほほえましい写真が掲載されており、当時の賑やかな神事の様子をうかがう事ができる。また、取材メモとして、鹿島神社の「シカ替え」、諏訪神社の「亀替え」、千歳神社の「鶏替え」、などがあったが、戦後すたれ、現在では於保多神社と諏訪神社が現存するとあった。『とやまの年中行事』（富山県教育委員会 2008）では、於保多神社の鶯替と諏訪神社の亀替の簡単な解説とともに、素朴な土人形のかえものの写真を見ることが出来る。

宗教関連の本では、『富山の寺社』（巧弦出版 1978）、『とやま癒しのパワースポット』（北日本新聞社 2012）に於保多神社の歴史と鶯替神事についての記述があった。

また、富山のかえものは土人形であることから、郷土玩具の資料を調べると『全国郷土玩具ガイド 1』（オクターブ 2004）には、鶯や亀のほか、<sup>えびす</sup>戎神社の鯛など、かつて県内で使用されていた約20種のかえもののカラー写真があった。

於保多神社に問い合わせたところ、近年、鶯替は行っておらず、また具体的な開催予定もないようだ。いつかこの伝統的な祭礼を復活させることができたらということだった。（本館 瀬口）